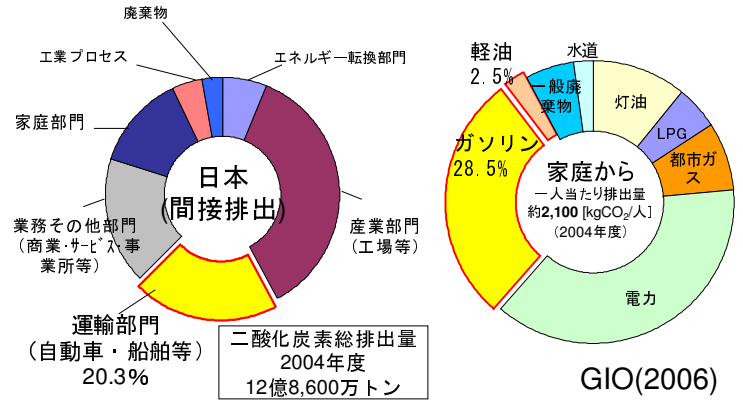


交通の脱温暖化が必要

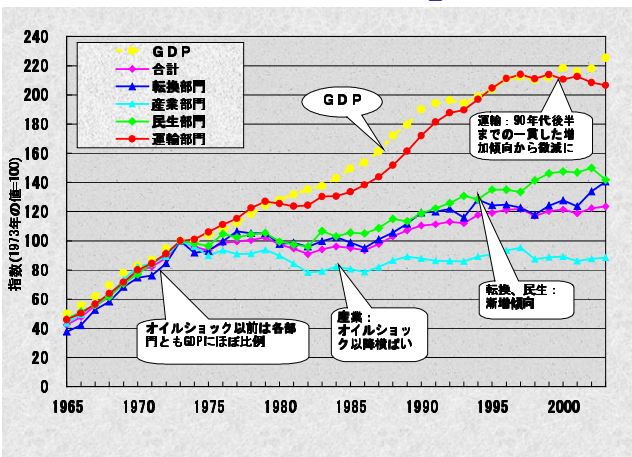


- 京都議定書「マイナス6%」だけでは、温暖化を止められない
- 2050年にCO₂排出量を世界で半分にする必要がある
- 日本は1990年比60~80%削減

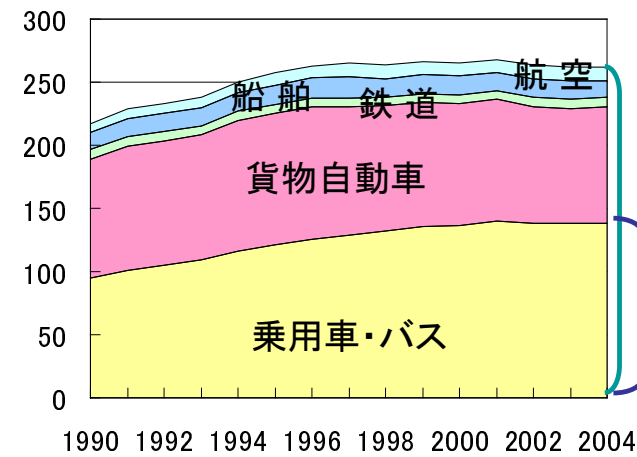
交通からの排出量は、日本の総排出量の2割、家庭からの排出量の3割



過去40年交通CO₂排出量

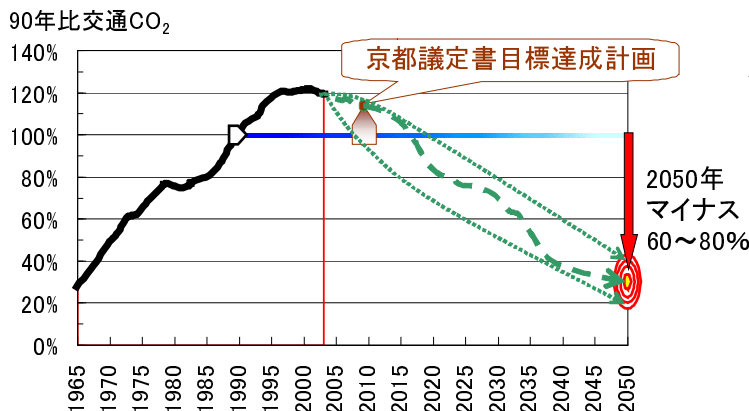


百万t/年



自動車からの排出が交通(運輸)の9割を占める
乗用車からの排出が90年代に大幅に増加した

交通からのCO₂排出量の削減目標



対策を組み合わせせて交通部門のCO₂を削減

交通部門のCO₂の計算式

$$\frac{\text{CO}_2}{\text{人口}} = \frac{\text{交通サービス}}{\text{人口}} \times \frac{\text{輸送キロ}}{\text{交通サービス}} \times \sum_{\text{交通手段}} \left(\frac{\text{走行台キロ}}{\text{輸送キロ}} \times \frac{\text{燃料消費量}}{\text{走行台キロ}} \times \frac{\text{CO}_2 \text{排出係数}}{\text{燃料消費量}} \right)$$

- ↓ 徒歩や自転車を活用する
- ↓ 交通手段を使って移動する回数を少なくする
- ↓ 土地利用をコンパクトにする
- ↓ 一回の移動にかかる距離を短くする
- ↓ CO₂の少ない乗り物を選ぶ
- ↓ 一台にたくさん乗せる
- ↓ 大きすぎない車両を利用する
- ↓ 混雑する場所・時間は使用しない
- ↓ 燃費や効率の良い車両を利用する
- ↓ バイオ燃料、自然エネルギーを利用する

脱温暖化のために・・・

自分でできる対策

1. 日々の地道な努力の積み重ね

- エコドライブに努める
- できるだけ歩くか自転車やバスを使う

普及啓発

2. 長い目で見て大きな決断

- 燃費が良く、大きすぎない自動車を選ぶ
- 公共交通や徒歩が使いやすい住まい、職場を選ぶ

制度整備

3. 地域社会への働きかけ

- 公共交通や徒歩が使いやすいまちにする
- 環境負荷の小さい選択が得をするしくみにする

市民参加